



# ありあけ

佐賀大学農学部  
同窓会報  
No.28

発行日 2021年7月1日  
編集 会報編集委員会

発行 佐賀大学農学部同窓会  
住所 佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700  
E-mail dousoukai@sadai.jp  
ホームページ http://sadai.jp/alumni/nougakudousoukai/

## 目次

巻頭言 佐賀大学農学部長 大島 一里 …… 1

ホームカミングデー 佐賀大学校友会 …… 2

令和3年度36回農学部同窓会総会について …… 3

同窓会表彰

同窓会会長賞受賞によせて 服部 南 …… 4

古賀 夕貴 …… 4

山田 梨裳 …… 5

尋木 優平 …… 5

同窓会感謝状贈呈者の紹介 …… 6

農学部情報

恩師からのメッセージ 早川 洋一 先生 …… 6

渡邊 啓一 先生 …… 7

研究室紹介 食資源環境科学コース 食資源情報学分野  
北垣 浩志 教授 …… 8

若手OB・OGからのメッセージ

道を切り開くためのたくさんの経験・努力を  
伊藤 僚汰 …… 9

日々農学の幅広さを実感 前田菜美子 …… 9

同窓会事務局からのお願い …… 10

編集後記 …… 11

協賛広告 …… 11

## 巻頭言



### さて、佐賀大学はどこに向かうべきなのでしょう…。

佐賀大学農学部長 大島 一里

農学部同窓会の皆様には日頃から、様々な方面から温かいご支援を賜り、大変感謝しております。第24代の農学部長を拝命いたしました大島一里でございます。

### 昔も…同窓生の皆さまと

今から29年前の平成4年5月に、当時の応用生物科学科植物ウイルス病制御学分野（旧植物病理学研究室）の助手として佐古宣道教授のもとに赴任して参りました。改組により植物ウイルス病制御学分野に研究室が分かれた直後であったもののほとんど植物病理学研究室として行動しており、佐古先生と田中欽二先生に大学、学部、そして自身の置かれている立場などについて教わりました。もともと北日本で生まれそして育ち北海道から赴任して参りました

ことから、九州そして佐賀の地はとても新鮮でした。当時パソコンはあったもののメールはほとんど利用されていなく、学生が携帯電話を持つようになり始めた時代でしたので、大学の仕事や研究に追い立てられることもなく、夜になれば先生方と飲みに行く時代でもありました。赴任して来るまでは夜中まで研究していましたので、大学に環境の違いがあることを知ったのもこの時期でした。このような生活をして研究成果は出るのでしょうか、自分の研究人生はこのまま終わってしまうのではないかと、一方でこちらの生活の方が人間らしい生き方ではないだろうか、また自分らしい研究ができるのではないだろうか、と言う気持ちを抱いたことを記憶しております。そのような思いの中、当時在籍していた先生方や未来の同窓生（写真1）そして当時現役で活躍

されていた佐賀県や九州各県内の同窓生の皆さまにはとても温かく迎えて頂きましたので、自然に佐賀に溶け込むことができ、今では熱帯夜の夜に飲み歩き過ぎましたせいか、蒸し暑い佐賀の真夏が一番好きになりました。



写真1 赴任当時の先生方と学生

### 現在も・・・同窓生の皆さまと

時が過ぎるのはとても早く赴任当時のことは昨日のこのように思い出しますが、現在では大学も少子化の影響を受け、様々な改革の波が押し寄せてくるようになりました。文部科学省は令和4年度から始まる第4期中期目標期間において「国立大学法人はそれぞれのミッションに基づいて、社会の様々なステークホルダーとのエンゲージメントを通じ機能を拡張し、社会変革や地域の課題解決を主導していくことが必要」とこれからの国立大学の在り方を提言しています。ただ私は、故野中福次先生、佐古先生、田中先生の輪の中に居ましたから、それが当たり前のように当時から感じていました。先生方が揃う29回目の令和3年1月開催予定であった病理学研究室の新年会（ひしの実会）は新型コロナウイルスの為にこちらに赴任してきてから初めて開催されず、28回で連続出席が終わってしまいました。現在の農学部は、平成31年4月に生物資源科学科1学科4コース体制として再出発しています。令和3年度の春からは、

特にステークホルダーである佐賀県との協調関係をさらに強固なものにしようと毎週奔走しておりますが、行く先々には応援して頂ける同窓生が大勢おりますのでとても動きやすく、また感謝しています。

### 未来も・・・同窓生の皆さまと

文部科学省は大学に統合を促し、国立大学については一つの運営法人の傘下に複数大学が収まる仕組みがつくられ、岐阜大と名古屋大が、「東海国立大学機構」を設立して経営統合など、他の大学でも構想が進んでいます。さて、佐賀大学はどこに向かうべきなのでしょう。いずれにしても、「佐賀大学のこれから－ビジョン2030－」にありますように、強い大学、強い農学部でないといけません。これには同窓生のご協力が必ず必要です。私も赴任してくる前は、佐賀と聞いた時に想像したのは、ムツゴロウ、おしん、そしてやはり有明海でした。同窓会報の「ありあけ」がやはりキーワードなのでしょう。

大学の教員に課されている不変なことがあります。それは疑いもなく、教育と研究です。研究としましては、税金を使っていますことから国立大学の教員として、国際的にリードする研究を世界に発信して世の未来に良い影響を与え、その成果をのちに地域と国民に還元することが大切であり、そして教育としましては、国際貢献や地域貢献できる将来同窓生になる卒業生を世に送り出すことが大切と考えています。これは先人である農学部の先生方からのご意志でもあり、教員を代表としてこの使命は引き継ぎたいと考えております。

同窓生の皆さま、様々な方面からのご支援を、何卒どうぞよろしくお願いいたします。

## 第10回佐賀大学ホームカミングデーの開催

【期日】 令和3年11月6日(土)午後～ 【場所】 佐賀大学本庄キャンパス

【目的】 佐賀大学の卒業生に母校佐賀大学を訪問してもらい、母校の現状を知り、恩師・学友との再会と交流を深め、今後の母校へのご理解とご支援をいただければ幸いです。

【対象】 卒業年等にかかわらず、全ての同窓生と本学の名誉教授

【内容】 大学の近況報告、講演、在校生によるアトラクション等

※詳しくは、佐賀大学校友会のホームページ

(URL <https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/>) の

「お知らせ」をご覧ください。

注) 新型コロナウイルス感染症の状況次第では、内容に変更がある可能性があります。

### 【申し込み・連絡先】

佐賀大学校友会事務局

E-Mail : [koyukai@mail.admin.saga-u.ac.jp](mailto:koyukai@mail.admin.saga-u.ac.jp)

TEL : 0952-28-8390

## 令和3年度第36回農学部同窓会総会について

会員の皆様には、第36回農学部同窓会総会を5月15日（土）に開催する計画でご案内させていただいていたところですが、昨年度に引き続き今年度につきましても、新型コロナウイルスの急激な感染拡大を受けて、中止の判断をさせていただきました。

詳細な総会資料につきましては、同窓会ホームページにて公開しています（閲覧パスワード：2021Soukai36）ので、ここでは概略を紹介させていただきます。

会員の皆様におかれましては、こういった形での報告のみとなることに対して、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

会長 水田 和彦（S51年卒 農土・機械）

### 令和2年度事業報告及び収支決算

(R2.4.1～R3.3.31)

#### ■事業報告

総会の中止をはじめ、農学部との意見交換会の中止など、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、活動に制約を受けることが多かった。

一方で、会報誌「ありあけ」26号、27号の発行をとおして、会員間の絆の醸成に寄与する活動を進めた。

また、在学生・教職員・卒業生の交流会とキャリアデザイン講座においては、新たにオンラインシステムを導入した取り組みをおこない高評価であった。

#### ■収支決算

(1) 一般会計

##### 【収入の部】

単位：円

科目	令和2年度 予算(A)	令和2年度 決算(B)	比較増減 (B-A)
前年度繰越金	87,370	87,370	0
会費	3,640,000	3,198,000	-442,000
学生(新入生)	3,080,000	2,640,000	-440,000
一般会員	560,000	558,000	-2,000
雑収入	182,630	84,009	-98,621
特別会計戻入	800,000	500,000	-300,000
計	4,710,000	3,869,379	-840,621

##### 【支出の部】

単位：円

科目	令和2年度 予算(A)	令和2年度 決算(B)	比較増減 (B-A)
事務費	1,160,000	839,132	-320,868
会議費	450,000	165,320	-284,680
事業費	800,000	445,387	-354,613
組織強化費	330,000	111,060	-218,940
全学同窓会負担金	1,540,000	1,320,000	-220,000
特別会計への繰出金	370,000	570,000	200,000
学生入会金	70,000	60,000	-10,000
学生平準化準備金	300,000	510,000	210,000
予備費	60,000	0	-60,000
計	4,710,000	3,450,899	-1,259,101

\*収入3,869,379-支出3,450,899= 418,480(次年度繰越)

(2) 特別会計

##### 【収入の部】

単位：円

科目	令和2年度 予算(A)	令和2年度 決算(B)	比較増減 (B-A)
前年度繰越金	12,857,943	12,857,943	0
一般分	7,045,421	7,045,421	0
会費平準化準備金	5,812,522	5,812,522	0
入会金	70,000	60,000	-10,000
会費平準化準備金	360,000	510,000	150,000
雑収入	557	97,924	97,367
計	13,288,500	13,525,867	237,367
一般分	7,115,500	7,202,852	87,352
会費平準化準備金	6,173,000	6,323,015	150,015

##### 【支出の部】

単位：円

科目	令和2年度 予算(A)	令和2年度 決算(B)	比較増減 (B-A)
繰出金	800,000	500,000	-300,000

\*収入13,525,867-支出500,000=13,025,867(次年度繰越)

### 令和3年度事業計画及び収支予算

(R3.4.1～R4.3.31)

#### ■事業計画

会員にとって、同窓会がより身近なものとなるように、支部の活動から始まり、本部の活動までの活性化を図るとともに、農学部との交流も積極的に進めていく。

そのために、会報の発行等による情報提供や同窓会名簿の整備点検を行い、同窓会活動への更なる参加促進を図る。

あわせて、農学部との意見交換等をおとして、農業版MOTや在学生への支援活動を実施する。

#### ■収支予算

(1) 一般会計

##### 【収入の部】

単位：円

科目	令和2年度 予算(A)	令和3年度 予算(B)	比較増減 (B-A)
前年度繰越金	87,370	418,480	331,110
会費	3,640,000	3,560,000	-80,000
学生(新入生)	3,080,000	3,080,000	0
一般会員	560,000	480,000	-80,000
雑収入	182,630	80,003	-102,627
特別会計戻入	800,000	651,517	-148,483
計	4,710,000	4,710,000	0

##### 【支出の部】

単位：円

科目	令和2年度 予算(A)	令和3年度 予算(B)	比較増減 (B-A)
事務費	1,160,000	1,160,000	0
会議費	450,000	450,000	0
事業費	800,000	800,000	0
組織強化費	330,000	330,000	0
全学同窓会負担金	1,540,000	1,540,000	0
特別会計への繰出金	370,000	370,000	0
学生入会金	70,000	70,000	0
学生平準化準備金	300,000	300,000	0
予備費	60,000	60,000	0
計	4,710,000	4,710,000	0

(2) 特別会計

##### 【収入の部】

単位：円

科目	令和2年度 予算(A)	令和3年度 予算(B)	比較増減 (B-A)
前年度繰越金	12,857,943	13,025,867	167,924
一般分	7,045,421	6,702,852	-342,569
会費平準化準備金	5,812,522	6,323,015	510,493
入会金	70,000	70,000	0
会費平準化準備金	360,000	300,000	60,000
雑収入	557	264	-293
計	13,288,500	13,396,131	107,631
一般分	7,115,500	6,772,984	-342,516
会費平準化準備金	6,173,000	6,623,147	450,147

##### 【支出の部】

単位：円

科目	令和2年度 予算(A)	令和3年度 予算(B)	比較増減 (B-A)
繰出金	800,000	651,517	-148,483
計	800,000	651,517	-148,483



## 令和3年度農学部同窓会役員

役職	氏名	卒年・学科(専攻)	備考	
会長	水田 和彦	S51・農土(機械)	佐賀県教職員支部	
副会長	森田 昭	S52・農学(農経)	佐賀県支部	
副会長	郡山 益実	H7・生生(浅海)	佐賀大学	
副会長	田中 治	S59・園芸(園工)	佐賀県農協連支部	
理事長	河野 宏	S63・農学(畜産)	佐賀県庁支部	
理事(編集長)	松尾 孝則	S52・園芸(植病)	佐賀県支部	
理事	吉賀 豊司	H2・園芸(応動)	佐賀大学	
	田中 宗浩	H4・生生(施設)		
	福田 伸二	H7・応生(植ウ)		
	宮本 英揮	H10・生生(水利)		
	徳本 家康	H14・生生(水利)		
	龍田 勝輔	H15・応生(害虫)		
	納富 麻子	H4・応生(遺資)		
	千住 泰彦	S63・農土(土改)		佐賀県庁支部
	木下 剛仁	H8・応生(育種)		

役職	氏名	卒年・学科(専攻)	備考
理事	安藤 新一	H14・応生(遺資)	佐賀県農協連支部
	今江 吉則	H10・生生(農場)	佐賀県教職員支部
	福田 喜隆	S63・農土(土改)	佐賀市役所
	溝口 善紀	S53・農学(植病)	佐賀県支部
荒木 清史	S54・農化(醗酵)		
監事	石橋 泰之	S60・農学(病理)	佐賀県庁支部
	瀬尾 裕一	S63・農学(育種)	佐賀県庁支部
支部長	鍵山 勝一	S61・農学(作物)	佐賀県庁支部
	大坪 正幸	S59・農学(農経)	佐賀県教職員支部
	古藤 英樹	H4・応生(植病)	佐賀県農協連支部
	大庭 英二	S51・園芸(果樹)	農業自営者の会
	福島 末行	S50・園芸(果樹)	佐賀県支部
	花田 健児	S47・農学(病理)	神埼支部
	伊藤 寿朗	S60・農土(土改)	熊本県庁支部

※今年度、新たに役員になられた方は赤字で表記しています

## 同窓会長賞受賞によせて

令和2年度の同窓会長賞に4名が選ばれ、佐賀大学同窓会長賞が「服部 南」さん、農学部同窓会長賞が「古賀 夕貴」さん、「山田 梨沙」さん、「尋木 優平」さんに授与されました。いずれも優れた研究成果と課外活動における社会貢献が高く評価されました。受賞された皆様にはお祝いの言葉を申し上げますとともに、今後なお一層の御活躍を期待します。



### 佐賀大学同窓会長賞

農学研究科 生物資源科学専攻  
生物科学コース

### 服部 南

この度は、佐賀大学同窓会長賞という大変名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございました。私は修士研究として、ミヤマガラスの越冬生態の解明に関する研究に取り組みました。

研究対象のミヤマガラスは、冬季に佐賀市中心部で糞害や騒音被害を引き起こしている鳥のひとつですが、対策に必要な詳しい生態が明らかになっていませんでした。そこで本研究では、越冬中の餌場や個体数の推移を含む越冬生態について調査を行いました。この研究結果は自治体やメディアにも注目され、研究成果を発表する機会もいただきました。またミヤマガラスに限らず、留鳥のカラス二種に関しても、現行の個体数調整方法の効果について検証し

ました。この他、県内の小中学生を対象とした自然観察会のスタッフなど、生物多様性に関するイベントにも携わらせていただきました。

研究室に配属された当初は、カラスの研究を4年間続けられるとは思っていませんでした。また、自分の研究以外にも様々な活動に参加させていただき、沢山の経験を積むことができました。これは、指導教員の徳田誠准教授をはじめ、研究室の先輩や同輩、地域の方々など、多くの皆様のご指導とご協力の賜物と考えております。また、私のことを静かに見守ってくれた家族の支えもあって、これだけの経験をさせていただけたのだと感じています。この場をお借りして、お世話になった皆様に心より感謝申し上げます。

令和3年4月からは北九州市の環境調査会社で鳥の調査員として、カラスを含む幅広い種の鳥と向き合っております。在学中に学んだ知識や経験を活かし、これまでお世話になった沢山の方々に恩返しすることができるように精進していく所存です。



### 農学部同窓会長賞

農学研究科 生物資源科学専攻  
食資源環境科学コース

### 古賀 夕貴

この度は、同窓会長賞という名誉ある賞をいただき、ありがとうございます。私は線虫に感染したニンニクを“におい”に着目して早期発見するというテーマで研究を進めてきました。先輩から引き継い

だテーマで、修士からこの分野に飛び込んできた私に進められるのか最初は不安でしたが、指導教員である上野先生との頻繁な進捗報告や相談のおかげで、感染ニンニクに特有なにおい物質を新たに同定でき、人工的に線虫を感染させたニンニクからもにおい物質を検出・同定できました。ニンニクの個体差やヒトの嗅覚の個人差を考慮することに苦労しましたが、サンプルやパネル(官能評価者)の数を増やし、先生方、後輩達の協力により、再現性の高いにおい物質同定が可能となりました。機械の不具合もあり

ましたが、その度に対応してくださった先生にはとても感謝しています。

農学からは離れますが、この賞では課外活動の陸上競技での成果も評価していただきました。高校から競技を始め、大学院進学後も気づいたら夢中で続けていました。学業以外でも、陸上から学んだものは大きく、陸上を通じて本当に多くの方々に出会えました。とくにこの2年間では、大規模なマラソンにも挑戦できたし、記録も大きく更新できました。



### 農学部同窓会長賞

農学研究科 生物資源科学専攻  
生物科学コース

## 山田 梨 澁

この度は、農学部同窓会長賞という名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。今回、私は卒業・修了研究および農業技術検定1級合格に関して賞をいただきました。

私が所属していた研究室では、研究材料としてダイズを扱っています。ダイズは栄養価が高く、タンパク質や油脂の他に、様々な機能性成分が含まれています。中でも、イソフラボンは、女性ホルモン様作用を持つ植物エストロゲンとして、注目を集めています。私が卒業・修了研究を通して取り組んだのは、このイソフラボンをダイズの種子中で作るのに関わる遺伝子を特定する研究です。毎日研究に取り組むのは楽しく、充実した時間でした。この地道な

研究の傍ら競技を続けることは大変でしたが、走ることで得られるメリットは多いし、研究以外での社会の繋がりもでき、何より楽しかったので、ここまで続けられて本当に良かったと思います。

私は令和3年4月に浄化槽のメーカーに入社しました。これまで支えてくださった方々への感謝を忘れて、水環境を通して、社会に貢献できるように仕事に尽力したいと思います。

積み重ねが1つの遺伝子を同定するという結果に繋がったのは大変うれしく思います。

研究室ではダイズ以外にもイネ、ムギなどの作物を栽培しています。そのための農作業では仲間とともに、炎天下でへろへろになったり、泥まみれになったりしました。そこでの経験と知識を客観的に評価すべく受けたのが農業技術検定でした。私自身、合格するとは思っておらずとても驚きました。今、振り返ると大変貴重な経験でした。

今回の受賞は、研究や農作業に取り組める環境と適切な指導をくださった穴井先生と渡邊先生、ともに研究や農作業に励んでくれた研究室の皆さま、検定用の対策講座を開講してくださった各分野の先生方のおかげと思っています。この場をお借りしてお世話になった皆さまに心より感謝申し上げます。

これからも、日々の学びを大切に、感謝の心を忘れず、佐賀大学農学部で培ったことを社会に還元できるように尽力していきたいと思っています。ありがとうございました。



### 農学部同窓会長賞

農学研究科 生物資源科学専攻  
生物科学コース

## 尋 木 優 平

この度は、農学部同窓会長賞という大変名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。

私は在学中、「アリアケスジシマドジョウの繁殖生態の解明」や「佐賀平野におけるトンボ群集に影響を及ぼす環境要因の特定」など、生物多様性に関する様々な研究に取り組みました。アリアケスジシマドジョウは、圃場整備に伴うクリークの改修工事の影響で、生息場所の悪化や個体数の減少が報告されています。しかしながら、本種の生態は未解明であったため、具体的な対策を立てることができない状況でした。そこで、本種がいつ、どこで産卵しているのかを中心に、繁殖生態を明らかにする研究に取り組みました。その結果、本種は6月中旬の増水直後に出現した浅瀬で産卵することがわかりました。したがって、改修後のクリークでそのような環境を創出することが重要であると考えられました。また、

トンボ類に関しても、農薬や外来種が各種に及ぼす影響を定量的に評価しました。

上記の研究および他の研究テーマも含め、日本生態学会、日本昆虫学会、日本魚類学会の大会等で計8件の発表を行い、4編の論文を学術雑誌に投稿しました。

さらに、生き物観察会の講師を数回務め、子供から大人まで幅広い年齢層の方々に生物多様性の重要性や佐賀特有の生き物の魅力などを伝え、少しでも多くの方に佐賀の貴重な生き物に興味を持ってもらえるように紹介してきました。

修士課程修了後は、これらの経験を活かせる環境コンサルタントの会社に入社いたしました。在学中に学んだことを糧にしてこれからも日々精進を重ね、生物多様性の保全と私たちの豊かな暮らしの実現とを両立できる道を模索していく所存です。

最後に、今回の受賞は私一人の力ではなく、指導教員である徳田誠准教授のご指導ご鞭撻や、多岐にわたる研究と一緒に取り組んだシステム生態学研究室の皆さんの支えがあったことです。この場を借りて、農学部および農学研究科在学中にお世話になった皆様に感謝申し上げます。



## 同窓会感謝状贈呈者の紹介

令和3年度の農学部同窓会会員表彰については、農業自営者の会から推薦のあった「野口 好啓氏 (S41年農学科卒)」と、佐賀県支部から推薦のあった「大久保 清海氏 (S41年農学科卒)」の2名に決定しました。

今年の同窓会総会の場で感謝状を贈呈する予定にしておりましたが、新型コロナウイルス感染症の関係で総会を中止せざるを得なくなり、感謝状を郵送で両氏のご自宅にお届けいたしました。この誌面で、両氏の功績の概略を紹介します。

野口好啓氏は、昭和41年農学部を卒業と同時に就農され、小城郡（現、小城市）三日月町において、米・麦を柱に畜産を組み入れた有畜農業経営に挑戦され、以来、専業農家として農業経営の確立に向けて活躍されてきました。また、地域の専業農家で組織する「農和会」のリーダーとして、減反政策など厳しい農業環境の中で、常に生産現場の視点に立った斬新な考えで積極的な政策提案を行うなど、地域農業の振興に尽力されました。



また、平成9年2月には、県内外の同窓会会員で農業経営に携わっている方々に呼びかけ、支部組織の一つとして「農業自営者の会」を創設するとともに、初代会長として、農業者のネットワーク化の取り組みや、大学と農業自営者との交流、佐賀県知事との懇談会の開催の橋渡し役を担うなど、同窓会活動の発展に大きな貢献をされました。

一方で、平成19年に誕生した佐賀県農業協同組合の初代組合長に就任され、佐賀県農業・農村の振興に尽力されてきました。

大久保清海氏は、佐賀県庁在職中の昭和57年から2期4年間同窓会の幹事に就任され、会誌編集業務を担当されました。



定年退職後は、佐賀県内において県庁や教職等を退職された者の集まりである「佐賀県支部」(平成20年2月発足)の発起人として、支部組織の立ち上げに取り組み、会員の合意形成やとりまとめにご苦労されました。

また、平成22年から3期6年間に亘り、本部理事を務められ、特に、農学部創立60周年記念事業の「農学部の歌」の制作実現に大きな役割を果たされました。

この間、本部と支部の連携強化や、会費納入の促進などに取り組むとともに、支部活動では、支部の全会員に葉書等を送り会員の近況把握に努めるなど支部組織のネットワークの強化に率先して取り組み、同窓会の発展に大きく貢献されました。

地域活動では、現在、校区の自治会連絡協議会の会長として、地域コミュニティの活性化にも精力的に尽力されています。

森田 昭 (S52年卒 農学・農経)

## 農学部情報

### 恩師からのメッセージ

今年の春、農学部を退官された2名の先生方から、同窓会員に向けて貴重なメッセージを投稿いただきました。先生方にはこれまで同窓生が賜った御高配に感謝申し上げますとともに、これからの御健勝とさらなる御活躍をお祈り申し上げます。

#### 佐賀と金木犀

早川 洋一



今春3月末に、ご依頼を受けたこの寄稿の件を偶然思い出したのは昨日の5月30日でした。慌てて過去メールを確認したところ、締め切りが今日31日であることが分かり、こうして書き始めた次第です。そもそも締め切りが2ヶ月以上も先と伺った3月の時点で、これは“忘れても許されるかも…?”と少しだけ頭を過ぎったのも正直なところですが、申し訳ありません。何せ、退職前に楽しみにしていたことは、

兎に角、締め切りに追われない生活だったものだから。

農学部1号館の南棟と中棟の間、旧昆虫研の窓の前には2本の金木犀が植わっています。十年ほど前に私がこっそり植えたものです。東側の1本はその横の松にも届かんばかりに背丈も伸び立派な木になってしまいました。一方、西側の1本はまだ小さく弱々しい木です。2本同時に植えた時点では西側の木の方が倍ほどの背丈で大きな苗木だったのですが、恐らく、この木の下には水道管があって生長が妨げられているようです。これまで何度か枯れそうな時期もあってその度に再移植も考えたのですが、そうした危機も乗り越え、毎春新芽を出して秋には芳しいオレンジ色の花を付けてくれるものだから、

このまま見守ろうと今に至っている訳です。いつもこの2本の金木犀を眺めて色々な思いに駆られました。ここではそのことから話を展開させるつもりは



ありません。ただ、何故（大学の許可を得ることも無く）勝手に木を植えたかを単にお話ししたかったのです。クマゼミのけたたましい声が止みツクツクボウシが鳴き始めるのがお盆前後で、その後、曼珠沙華が咲き始めます。そして、早い年には9月下旬には金木犀が香り始めます。金木犀の香りこそ、その夏の一卷の終わりのサインであり、“ああ、今夏も漸く乗り切れた！”という安堵感に浸れたものです。北海道生まれで北海道育ちの私にとって佐賀の夏の暑さは脅威でした。ただ勝手なもので、こちらに戻って2ヶ月、“北海道の春はこんなにも寒かった？”という戸惑いにも似た思いは、早くも佐賀へ

の郷愁の表れかもしれません。先日、札幌市内で車を運転していたところ斜め前に久留米ナンバーの車を見つけました。驚きと共に、妙に親近感を覚えたのも正直なところでした。

さて、多くの方々にご迷惑をお掛けしながらも支えられて過ごした17年間の佐賀での生活を一言で言い表すことは至極難しいことですが、ぼんやりと『濃ゆい』ものだったように思えます。ただ、その濃さは胸を張って自慢できる充実感というよりは、少々忸怩たる思いも含んだものであります。何より教育の難しさを思い知らされた17年間だったからかもしれません。この事を詳細に分析し始めると、恐らく2,000～3,000字では収まらない上に、至極退屈な反省文になることは間違いありません。ですので、ここでは最後に、一言、直接私の研究室に籍を置いたり、講義を受講した（旧）学生諸君にお詫びを申し上げてあっさり切り上げたいと思います。“本当に中途半端な接点の持ち方（指導？）しかできなかったことを許して下さい。ただ、僕は、君が今置かれたその場で生き甲斐を感じて強かにしっかりと歩んでいる事を心から願っています。いつまでもお元気で、どうぞ。”

## 真理の追究と社会貢献

渡邊 啓一



農学部同窓会の皆様には、お元気にご活躍のことと思います。私は本年3月末に、佐賀大学を定年退職しました。昭和63（1988）年7月に農学部の生命化学分野担当の助教授として赴任して以来、本学で32年9ヶ月の教員生活を送りました。吉野ヶ里遺跡発見のニュースが全国で注目を集めていた年に、佐賀に引っ越してきたのがつい先日の事の様に思い出されます。これまで、研究・教育・社会貢献という大学人生活を苦労しながらも楽しく有意義にやってこられたのは、多くの先生方や事務職員の方々、そして、何よりも一緒に研究室や部活で過ごした卒業生、修了生の皆さん、そして、この農学部同窓会の皆様のおかげと、心から感謝しております。現在、多くの学生たちが、社会に出てそれぞれの立場で活躍しており、彼らとの交流が私のかけがえのない人生の宝物であります。

退職に当たり、これからの人生の4つの目標（夢）と計画を漠然とありますが立てました。人生100年時代の到来といいますが、とりあえず、5年きざみで85歳までに、サイエンス、スポーツ、芸術、文学における目標をこの順に達成したいと考えております。ここでは、これまでのサイエンスに関わる活動を振り返り、これからの予定を述べたいと思います。

私は佐賀大学に赴任する際に、「研究をやるならまだ誰も手を付けていない魅力的で挑戦的な課題に取り組みライフワークとしたい。」と思っていました。

そして、「南極海水下の環境に生息する微生物や魚類由来の低温で高い活性を持つ酵素のなぞ解き」を研究テーマとすることにしました。1990年11月～1991年3月の間、文部省南極地域観測隊の隊員として、海水下の魚貝類を採集し凍結して研究室に持ち帰りました。当時、着任早々の若造の夢に耳を傾け、実現に向けて協力して下さった学科や学部の先生方には心から感謝いたします。また、後期の担当授業を集中講義として、学生たちにも迷惑をかけました。しかし、このユニークな研究テーマに着手できたおかげで、科研費の萌芽的研究、基盤研究（C）、基盤研究（B）を連続して獲得し、文部科学省タンパク3000プロジェクトにも参画することができて、研究費に困ることはありませんでした。また、ケンブリッジ大学やアイスランド大学の研究者との共同研究を進め、バングラデシュ、インドネシア、中国、韓国や台湾の留学生を含め数多くの学部生、大学院修士、博士の学生たちが学位を取得していきました。現在も、低温適応酵素の研究は分子生命科学分野に引き継がれ、活発に研究がなされていることをとても嬉しく誇りに思います。

研究環境整備の面では、佐賀大学赴任前から物理系の仲間と構想を練っていたシンクロトロン光施設が、鳥栖市にある佐賀県立九州シンクロトロン光研究センターとして現実のものとなり、2006年に利用が開始されました。私は2004年に生体分子構造研究会をたちあげ、タンパク質研究に欠かせないX線結晶構造解析用のビームラインの策定やシンポジウムの開催を行いました。このプロジェクトは、学部や大学の枠を超えた研究者と地方自治体や国の関係者が一丸となって協力し取り組むことで実現できました。昨年、このセンターで酵素の触媒中心金属の謎を解き明かすための「X線吸収微細構造解析」を始



めました。これは世界中の誰も知らない謎解きに挑戦することになりますが、大学院に進学した学生さんと一緒にこの7月も実験を行います。真理の追究に終わりはありません。

2013年4月から2017年3月まで、学部長として大学の運営に携わることになりました。「国際的な視野から地域社会の発展と人材育成に貢献する」ことを学部のミッション・目標に掲げ、私自身の研究テーマも産官学連携による研究開発の割合が多くなってきました。農学部、佐賀県、そして卒業生の菅谷社長が率いるベンチャーIT企業オプティムとの連携により、「楽しく、かっこよく、稼げる農業を佐賀からITを使って実現する」ことを目標に、2015年の8月より研究開発を開始し、その成果は国内だけでなく、欧米、アジア、アフリカ諸国からも認知されるようになりました。さらに、佐賀県・唐津市コスメティック産業クラスター形成構想及び佐賀市バイオマス産業都市構想を積極的に推進しました。2016年2月から佐賀・福岡地域機能性農産物推進協議会会長として、機能性農産物の産地化、ブランド化のための研究開発事業を展開し、現在に至っています。

退職後、4月から九州栄養福祉大学食物栄養学部教授として、教育研究に従事しています。近くの平

尾台には、最近研究対象にしてきた希少伝統植物ムラサキの自生が九州で唯一確認されており、私の新たな自然が美しい研究フィールドとなっています。このムラサキと機能性農産物、酵素の謎解きを研究テーマとして、佐賀大学と共同研究を続けながら、これからも真理の追究と社会貢献を実現していく予定です。今年12月4日に佐賀市アバンセで、薬用植物栽培研究会研究総会を開催し、私は「希少伝統植物ムラサキの研究と社会実装」と題して、大会長講演を行います。ワクチンが効いて、オンラインとしないことを祈ります。ご興味のある方はぜひ、参加してください。

末筆ながら、農学部同窓会の益々の発展と、同窓会員の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈りいたします。

\*私の研究室に所属していた二人が結婚し、太良町でバラ栽培の「原園芸」を運営していますが、写真は、先日、退職祝いとして贈ってもらった生け花のブーケです。5月に行われた日本ばら切り花品評会で、2位と3位に入った品種が入っているそうです。次は1位の農林水産大臣賞を取れるように頑張るとのことでした。このように元気に活躍している卒業生からの連絡が、一番の宝物です。

## 研究室紹介 その⑬

## 食資源環境科学コース 食資源情報学分野

教授：北垣 浩志

佐賀大学農学部同窓会の皆様にはいつも大変お世話になっており心より感謝しております。

佐賀大学には2008年よりお世話になっております。

食資源情報学分野では、発酵食品の健康機能性や、腸内細菌への影響、化粧品としての適性などを研究しそれらを生かした新規商品の開発、新規産業の創成を目指しています。

学生への教育としては数学、物理学、化学、生物学、統計学などの基礎的な科学の勉強をしっかりさせると同時に、分析化学や脂質化学などの分析のトレーニングを積ませるようにしています。さらに、腸内細菌学、皮膚科学、化粧品学を中心とした健康科学全般の知識習得も目指しています。

大学院修士課程は佐賀大学大学院先進健康科学研究科に接続しており、大学院に進学した場合には、医学部や理工学部と連携した授業や教育を受けることになります。

フランスや中国、韓国などの諸外国では化粧品産業を国家の基幹産業として育成に務めており、大学にも多額の投資を行っています。日本でも化粧品産業は2兆5,000億円にも達すると言われており、教育研究体制にも充実が望まれています。学生の中にも化粧品産業への就職を希望する人が多くいます。

腸内細菌は健康やさまざまな病気に重要な役割を持つことがわかりつつあり、世界中の国が研究に投資しています。例えば米国では腸内細菌と健



康の研究に250億円の投資をしています。現在、そうした研究成果から多くの新規産業が生まれつつある状況です。腸内細菌のうち乳酸菌などの善玉菌そのものであるプロバイオティクスの世界での市場規模は7兆円にも達すると考えられており、善玉菌の増殖を促す素材であるプレバイオティクスも1兆円以上あり今後さらに急激に大きく増加する考えられており、大きな産業を形成する考えられています。



伸長している産業では基本的に売り上げが毎年伸びていく枠に対して、こうしたビジネスを行うための人材が不足していることから学生の採用意欲が旺盛であり、学生の就職を考え、学生の教育と研究はこうした産業にターゲットを絞ったものにしようと考えています。

研究内容は発酵食品に多く含まれる麹セラミドが腸内細菌にどのような影響を与えるか、皮膚細胞にどのような影響を与えるか、などについて研究しております。麹セラミドは日本の発酵食品に多く含まれていることを当研究室が世界で初めて見出してアメリカ化学会誌に論文発表したもので、その独自の健康機能性の解明が期待されています。その一部は佐賀県の東洋新薬などと共同研究しており、その研究成果として、東洋新薬から発酵セラミドという化粧品成分として販売されるなどしています。また佐賀県の天山酒造とのスパークリング低アルコール日本酒、株式会社インパクトとの免疫活性化乳酸菌、小林製薬との抗炎症効果のある紅麹、キリンとのさわやかな味のビール、エヌビーアールとの毒性のない麹化亜麻仁などの開発・商品化の実績があります。研究室の運営はこうした企業からの共同研究費で行っていますが、科学としても新規性が高く、健康産業全般に波及性の高い側面の研究も同時に進行させ、科研費や農林水産省からの研究費を取得して行うことでも運営しています。基本的には自分に興味があることを研究しているだけですが、学生の就職を考え、市場の方向性や動き、ベクトルは常に意識しています。これまで多くの学生は大学院修士課程まで進学

することを希望しており、卒業生は資生堂、雪印、マンダム、三和酒類、霧島酒造、大関、キリン、キューピー、不二家、フジッコ、大石膏盛堂、フランソワ、大和証券、ヨコオなどに就職しています。教員としては、これまでどの卒業生も「就職先無し」の状態にならずに卒業生全員が就職できているということに安堵感を感じています。

就職する学生たちには、「自分たちが大きい会社に就職したということは、他大学の学生を落としたことを意味する。大きい会社に就職したら、その分、卒業してからもずっと自己研鑽を怠ることなく、日本全体の経済を豊かにし、日本の国民全体が豊かになる、ひいては世界全体の人々が幸福になるような仕事をするを考えなさい」と話しています。ビジネスや研究、新規産業に携わるための心がけ、なんのために仕事をするのか、周りの人とのかかわり方などもできるだけ伝えるようにしており、卒業生は社会に出ても活躍しています。

コロナウイルスが蔓延する前には実験が終わった後は学生とのコミュニケーションと自分自身の健康管理を兼ねて、学生とフットサル、テニス、卓球と運動していましたが、コロナウイルスの蔓延した後はこうしたことはできなくなっていますのでできるだけマスクをしつつも対面で話をしてコミュニケーションをとるようにしています。

今後とも同窓会の皆様にはお世話になると思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

## 若手OB・OGからのメッセージ

### 道を切り開くための たくさんの経験・努力を

佐賀県農業試験研究センター 伊藤 僚汰  
(H29年卒 応用生物科学科 熱帯作物改良学)

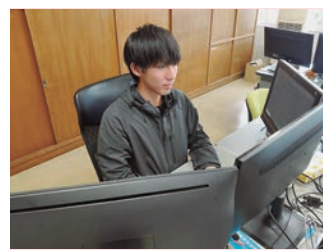
私は平成29年度に佐賀大学農学部熱帯作物改良学研究室を卒業し、現在、佐賀県職員として農業試験研究センターでスマート農業に関する研究をしています。

佐賀県職員を目指したきっかけは、学生時代の経験にありました。学生時代は、NPO法人佐賀大学スーパーネットに所属しグリーンツーリズムを行い、またJICAのインターンシップで2か月間アフリカのカメルーンに滞在し日本のJICA専門家の方々と一緒に稲作の普及指導を行い、さらにIT農業の事業部がある株式会社オプティムでアルバイトをする等、積極的に様々なことにチャレンジしました。佐賀県庁は、JICAのカメルーン事務所及びオプティムと交流があります。また私のNPO法人でのグリーンツーリズムの経験が活きるのではないかと考え、

佐賀県に就職しました。

佐賀県の農政職は、大きく分けて行政・普及・試験研究の3つの業種があり、就職した当初は、行政に該当する農林事務所勤務でした。農林事務所での私の仕事は、生産者がハウスや機械の整備する際に、行政の補助金という形で支援を行うというものでした。その業務の中で、自分が携わったハウスや機械が整備されていくのを見て達成感を覚えました。

元々IT農業に興味があったため、次の異動先は、農業試験研究センターのスマート農業の部署に行きたいと思いました。そのため、家に帰って独学でプログラミングやITの資格の勉強をし、また職場内ではオプティムでIT農業の経験があることを公言し希望の部署に行けるよう





に上司に猛アピールしました。それが功を奏したのか、今現在は、農業試験研究センターでスマート農業研究担当をしています。

農業試験研究センターでは、キャベツの収量・収穫期予測技術の開発のための研究を行っており、ドローンを使ってキャベツを撮影し、撮影した画像、生育データや環境データ等を様々なITツールを用いて解析しています。時には、Pythonという言葉で独自にプログラミングを行うこともあります。念願の職場ということで、毎日の仕事がとても楽しいです。また、年間20日ほど休暇をとって、美味しいものや温泉を目指して旅行をし、プライベートも充実しています。

最後に、在学生の皆さんへのメッセージとしては、「道は自分で切り開くものであり、道を切り開くためのたくさんの経験・努力をしてほしい」と思います。就職先を決めるのは大学4年間どういった経験をしたのかが重要です。就活の面接では、大学4年間で何をしたのかが問われます。私は、NPO法人やJICA、オプティム等での経験が評価され、就活という道を切り開くことができました。また、希望の部署に異動するための努力を惜しまなかった結果、幸いにも異動先という道も切り開くことができました。みなさんが「努力が報われた」と思える大学生活を送れるよう応援しています。

## 日々農学の幅広さを実感

伊万里実業高校 前田菜美子

(H23年卒 生命機能科学科 食品栄養化学)

私は現在、教師として農業高校に勤務しています。教壇に立ち始めて10年目になりますが、日々「農学の幅広さ」を実感しています。



以前までの私の農業高校に対するイメージは、いわゆる“農作業”。長靴を履いて、軍手をはめて、帽子をかぶって畑での実習に励んでいるようなイメージしかありませんでした。当時あまり農業に興味がなかった私でしたが、勧められるがまま、農業高校に入学しました。そんな中途半端な気持ちでスタートした農業高校生活ですが、製菓、製パン、発酵、理化学分析実験など、私がイメージしていた“農”のイメージとはかけ離れた学習内容ばかりで、“食”と“農”のつながりを学んでいくうちに、どんどん農学の奥深さを感じました。



大学では食品栄養化学を専攻し、日々無数の実験器具や実験動物に囲まれ、食品分析に関する学習に

没頭しました。

そして現在は伊万里実業高校、フードビジネス科に勤務し、農学の魅力を教える立場になりました。生徒の中にはかつての私のように将来の目標も決まっていない、特に農業に興味もない、ただなんとなく入学する生徒も少なくありません。そんな生徒に対し、栽培実習、商品開発、食品成分分析、販売実習など、“食”を糸口とした様々な角度から農業教育を展開しています。それまで夢や目標がなかった生徒が「栄養士になりたい」「パティシエになりたい」「健康カフェを経営したい」と、目を輝かせてそれぞれの道へ進んでいく様子を間近で見て来ました。農が食を支え、食が人を支える構図を学んだ生徒だからこそ、見えてきた目標なのだと思います。また、高校での授業の一環として、地元食材を活用した商品開発を行っています。在学中に身につけた専門知識と実験技術は私の強みとなりました。他にも、大学進学を希望する生徒の進路指導など、大学での経験が大いに役に立っています。

近年は、度重なる自然災害や新型コロナウイルスの発生など、なにかと変化の多い世の中ですが、私たちにとって農・食・人とのつながりはいつの時代も変わらず、後世に伝えていくべき産業であると改めて感じています。

最後になりますが、佐賀大学農学部で学ぶ学生の皆様の今後のご活躍、佐賀大学農学部同窓会の発展を祈念申し上げます。



## 農学部卒業生の皆様へ 会費納入のお願い

卒業生の皆様と同窓会事務局とのつながりを保つていくために「会費納入」をお願いします。農学部同窓会の運営経費は、会員の皆様から納入いただいた会費で賄われております。同窓会の運営が母校や後輩学生への支援につながっていることにも想いいただき、重ねてお力添えをお願いいたします。

### 〈会費〉

- (1) 1年会費は2,000円（毎年納入していただくものです）
- (2) 3年会費は6,000円（3か年分まとめて納入していただくものです）
- (3) 70歳未満の方の終身会費は30,000円
- (4) 70歳以上の方の終身会費は15,000円

会費は納入いただいた時点以降の取り扱いであり、納入以前の未納については問いません。

### 〈手続き〉

会費の納入方法は、ゆうちょ銀行振替口座への振り込みとなっています。

同窓会事務局（TEL0952-23-1253）まで連絡をいただければ、払込取扱票をお送りします。



## 編集後記

●東京オリンピックも間近に迫る中、新型コロナウイルス感染症の終息がまだまだ見込めないばかりか、感染力が強いとされるデルタ株が増加をしており、「平和の祭典」が「感染拡大の祭典」とならず無事終わることを祈るばかりです。会員の皆様はいかがお過ごしのことでしょうか？

●同窓会活動もコロナ禍の影響を受け、昨年に引き続き今年も総会の開催は中止となりました。また、各支部の活動も制限を受けているようで、今号の「支部だより」は便りが集まらず掲載することができませんでした。

●こうした中、投稿いただきました執筆者の皆様には心よりお礼を申し上げます。特に、「巻頭言」を執筆いただいた大島一里新学部長、「恩師からのメッセー

ジ」を執筆いただいた早川洋一先生、渡邊啓一先生には、新たな立場や新たな地での生活が始まりお忙しい中で会員に向けてメッセージをいただきましたことに重ねてお礼を申し上げます。

●さて、今回残念ながら「会員の広場」は紙面の都合上掲載することができませんでした。しかし、会員の皆様からの投稿でなる「会員の広場」や「若手OB・OGからのメッセージ」は執筆をお願いするのに苦勞をしているのが現状です。

●会員の皆様には、気軽に、また積極的に投稿いただくなど、今後とも農学部同窓会報「ありあけ」のさらなる充実・発展に向けて御協力・御支援をよろしくお願いたします。

松尾 孝則 (S52年卒 園芸・植物病理)

## 協賛広告

この度の同窓会報発刊に際しまして、新型コロナウイルス感染拡大で経済的にも厳しい状況の中、協賛広告をお寄せいただき誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げますとともに、協賛各社の益々の御発展をお祈り申し上げます。

サラダ油・小麦粉といえば、  
やっぱり理研





Grain & Pet Care Communication

# 株式会社 森光商店

〒841-8611 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜9-7  
PHONE.0942-85-1125(代) FAX.0942-83-8868

ホームページ <http://www.morimitsu.co.jp>

JAグループ佐賀 消費拡大運動実施中!

**食**べよう! **飲**もう! **飾**ろう!



耕そう、大地と地域の未来。



JAグループ佐賀

JA佐賀中央会/佐賀市栄町3番32号 TEL.0952-25-5115

JAグループ佐賀

検索